



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2023年4月30日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部



生きるか死ぬか、揺れるオイルの街 5月4日(木)＝1、3面

社会の脱炭素化が急ピッチで進む中、化石燃料工場の閉鎖が相次いでいます。ENEOS和歌山製油所（和歌山県有田市）もそのひとつ。80年の歴史に幕を下ろすことになりましたが、地元の雇用を支えてきただけに、知事や市長は激怒。

結局、再生可能エネルギーの工場として生まれ変わる事になりました。閉鎖決定から1年。製油所と共生してきた街の関係者を追い、工場閉鎖で雇用を失う地方が脱炭素社会をどう生き抜けばいいのか考えてみました。



白い煙と共生してきた和歌山県有田市。ENEOSが和歌山製油所の閉鎖を発表すると街に激震が走った。2月6日



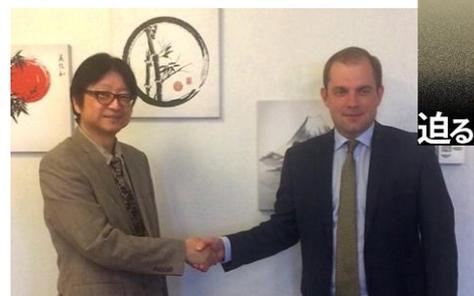
どうなる憲法改正

5月3日(水)＝1、3、特集面

憲法記念日に合わせて、国会での憲法改正を巡る動向や議論の現状について紹介します。岸田文雄首相＝写真＝は改憲の必要性を訴えますが、政治課題が

山積する中で、どのようなスケジュールを描いているのでしょうか。改憲に慎重な立憲民主党、前向きな日本維新の会の立場の違いが、改憲論議にどう影響す

るのかについて明らかにします。特集面では憲法と同性婚などLGBTQとの関係、司法判断について掘り下げます。



迫る

特集ワイド

球春のバッティングセンター

5月1日(月)＝夕刊特集ワイド

野球のワールド・ベースボール・クラシック(WBC)で日本が世界一になってから1カ月が過ぎ、日米リーグも開幕しました。熱気は今、バッティングセンター＝写真＝を包んでいます。WBC準々決勝の試合

会場となった東京ドームの隣のセンターでは連日、打球音が響き渡っています。かつての野球少年や野球未経験の若い女性、アメリカ人グループなど、そこに集まる人がバットを振りたくなる理由取材しました。



ウクライナの復興 金融で支える

国際協力機構(JICA)で一般職員とは別の「専門家」として活躍する田中克さん(69)＝写真左・田中さん提供＝には「ウクライナ財務相アドバイザー」の肩書もあります。田中さんは2016年1月から首都キーウに滞在し、金融業界の再建を進めてきました。しかし、

ロシアがウクライナに侵攻する危険が迫っていた22年1月、国外に脱出。現在は日本からウクライナ財務省の幹部職員や金融関係者と協議を続けています。ウクライナに戻って復興を支えたい。そう考える田中さんの心境に迫ります。

30日(日)＝1、3面



編集後記

毎日新聞社などが主催する展覧会「重要文化財の秘密」が東京・竹橋の東京国立近代美術館で開催中です。近美70周年記念で企画された明治以降の重文だけを集めた展覧会。傑作も、発表当時は斬新すぎる表現手法で「問題作」と見なされた……といった審美の変遷も分かります。5月14日まで。ご好評につき、GW中には午後8時まで夜間開館する日もありますので、アトに浸りに出かけてみませんか。(石原聖)



※「ウクライナの復興 金融で支える」は紙面事情により掲載日が4月30日付に変更となりました。このため再掲載しております。